



TITLE:

臨界現象(研究会報告)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

臨界現象(研究会報告). 物性研究 1977, 29(1): A1-A2

ISSUE DATE:

1977-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89426>

RIGHT:

## 研究会報告

### 「 臨 界 現 象 」

今回は、コーナル大学のフィッシャー教授の1ヶ月の日本滞在に合わせて、6月18、19、20日の3日間、短期研究会を基研で行った。フィッシャー氏が参加している為、話しはすべて英語で行なわれた。午前中は、フィッシャー氏の2時間の講演で、非常に熱のこもったものであった。午後は、割合いにゆったりとした30分間づつの講演を行った。特に印象的だったのは、フィッシャー氏がすべての午後の日本人の講演になんらかのコメントをしたことである。その為か、今回の研究会は、かなり充実したものとなった。この研究会は、実験グループがかなり参加しており、フィッシャー氏も実験家の話しに興味を持っていた。フィッシャー氏の3つの講演のうち、「PQR近似」の話しを別の機会に物性研究に載せる予定である。

#### プログラム

- |     |           |   |
|-----|-----------|---|
| 18日 | フィッシャー    | 「強磁性・反強磁性での複式臨界性」   |
|     | 川 端 親 雄   | 「2次元、3次元での古典的XY模型のモンテカルロシミュレーション」   |
|     | 別 役 広     | 「2次元ハイゼンベルグ模型と平面回転子模型の計算機実験」  |
|     | 松 浦 基 治   | 「 $S=1/2$ の2次元ハイゼンベルグ反強磁性体の臨界現象」  |
|     | 太田隆夫・川崎恭治 | 「Renormalization Group Approach to the Interfacial Order Parameter Profile Near the Critical Point」 |
|     | 本 田 直 文   | 「On the Renormalization Group Transformation of Quantum Spin Systems」                               |
| 19日 | フィッシャー    | 「表面自由エネルギー」   |
|     | 阿 部 龍 蔵   | 「Critical Behavior of Annealed Random Spin System at $n=-2$ 」                                       |

臨界現象

- 八 田 一 郎 「反強誘電体  $\text{NaNbO}_3$  の臨界緩和」
- 宮 島 佐 介 「Anisotropic Behavior in Isotropic Systems Coupled with an Anisotropic Interaction」
- 氷 上 忍 「結合した秩序系での固定点」
- 岡 部 豊 「 $T_c$  の Spin 次元依存性 (  $1/n$  展開 )」
- 桂 重 俊 「ランダムボンドイジングモデルにおけるガラス状相」
- 20 日 フィッシャー 「PQR 近似」
- 橋 本 巍 洲 「 $\text{Cu}_3\text{Au}$  合金における秩序—無秩序相転移の過渡過程における秩序整列過程の研究」
- 椎野正寿・橋本巍洲 「EuS における  $\vec{M}(\vec{q}=0)$  の臨界緩和」
- 池 田 博 「確率的 Eight Vertex 模型の “弱い普遍性”」
- 中 野 藤 生 「Phase Transition in KDP and DKDP and in Two-Doublet Spin System」
- 小 貫 明 「Non-Newtonian Effect Near the Critical Point」
- 原 田 義 文 「Critical Sound Absorption in Binary Liquid Mixture of Triethylamine-Water System」